

ある。ただし、解説は小さい活字（本も小さい）がぎっしりつまっていて読みづらい。

最後に気になったことをいくつか挙げる。第一は誤り。年周視差の発見 1728 (p. 16 図A), 三鷹 30m 電波望遠鏡 (p. 25, なお鹿島にも今は 30m 電波望遠鏡はない), ギャラクシー間物質の密度が 1cm^3 当たり 10 原子ぐらい (p. 201)。第二はことばに関すること。地球の「境位」(原著緒言) とか、「無ギャラクシー帯」など (p. 200) とかは、耳なれない、あるいは日本語になじまない表現である。アソシエーションを「星落」とは土井晩翠でもあるまいと思わせられる。また「きたの」かんむり座は訳しすぎである。「地平線の上下を合わせた全尺」(p. 141) とはなんだろうか。そのほか、日本語としていかにも生硬な文章が散見される。第三は巻末の用語解説と本文との食い違い。これは星の距離や物理量には観測

者によって食い違いがあることを読者にわからせるためかもしれない。しかしそれは然るべき箇所の説明しておけばよい。ここは両方の出典を吟味して、より信頼できると思える方に統一した方が初心者やアマチュアに対して親切であろう。それにしても、パルサーの数の違いは大きすぎる。第四は「日本の風土に一致させるための改訂補筆」が不十分なこと。特別な意味のない北緯 50° のこと (p. 43 など) より日本にある緯度でのことを書くべきである。時のことでも「中部ヨーロッパで例をあげる」(p. 47) より日本で例をあげた方がわかりやすい。

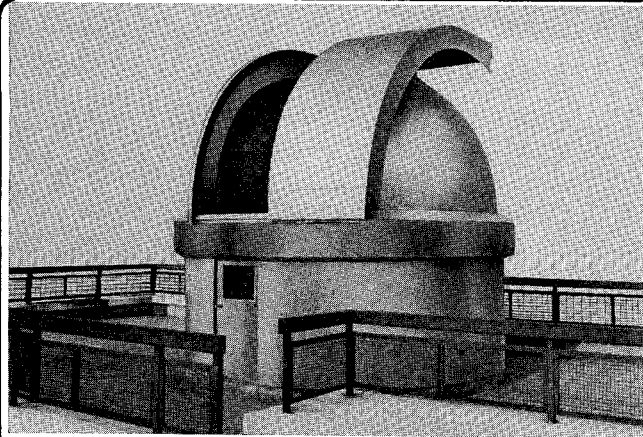
ここに挙げたことは趣味の問題もあって、すべてが本質的ではない。しかし、これらを直せば本書はもっとよくなるし、評者の気づかない部分に対する信頼感が増すことと思う。(佐藤文男)

学会だより

訃報：本会名誉会員・京都大学名誉教授 上田 穰先生は、1976年11月13日午前9時10分に84才で逝去されました。謹しんで御冥福を御祈り申し上げますと共に、会員諸氏に御連絡致します。

藤原賞受賞候補者推薦について

財団法人藤原科学財団より、第18回藤原賞受賞候補者を推薦されたい旨の依頼が学会あてにありました。適当な方がありましたら、庶務理事あてに2月15日までに御連絡下さいますようお願い致します。藤原賞はわが国科学技術の発展に卓越した貢献をされた方に賞2件（副賞金1千万円）が贈呈されます。



営業品目

- ★天体望遠鏡ならびに双眼鏡
- ★天体写真撮影用品及び部品
- ★望遠鏡各種アクセサリ
- ★観測室ドームの設計・施工



★総合カタログ
ご希望の方は切
手 300 円同封お
申込みください

ASTRO 光学工業株式会社



〒170 東京都豊島区池袋本町2-38-15 ☎03(985)1321